

■今月の特選句

2018年7月

素足てふ一部ヌードの解放感

堀川明子

素肌を人目に触れさせることを慎む礼節など今や遠い昔。しかし、作者には恥ずかしさがあるからこそ詠めた一句。「ヌード」の大袈裟が滑稽。

ゴールまで横一線や鯉のぼり

白井道義

使われなくなった鯉幟は、田舎のダムや川の上に飾られることとなる。余生を送る鯉幟達は、ここでも競争社会かと口をぱくぱく嘆いている。

起し絵の強敵3Dプリンター

高橋きのこ

何と言っても句材の3Dプリンターの新しさがいいね。古い季語「起し絵」との対比で面白い句となった。アナログがデジタルに追い越される悲哀も。

陶枕も戸惑う君の石頭

八塚一青

陶枕は、中に水を入れて使う陶製の夏の冷房枕である。石頭とは、頭蓋骨の硬さのみならず、考え方が硬く融通が利かないことを言外に表現。

どくだみを貼って隠せず臍（すね）の疵

本門明男

「どくだみ」は「十薬」とも言い、十種の薬効があるという。しかし、そのどくだみをもってしても隠せないほどの臍の疵とは、いかなるものであるか。

事件です動き出したるソフトクリーム

森岡香代子

ソフトクリームを食べる時は真剣勝負である。溶けて傾き始める前に迅速に対応しなければならない。ほらほら、よそ見してたら落ちますよ。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

サングラス人畜有害装へる ・・・悪ぶることにちよつと憧れ	桑田愛子
ふりちんを追ひかけてゐる天瓜粉 ・・・子どもの頃はみんな可愛い	小林英昭
雲の峰関八州を睥睨す ・・・天網恢恢疎にして漏らさず	小川鈍太
母の日のいつしか婆の日となりぬ ・・・分からぬことはこの婆に訊け	赤瀬川至安
まごころのなしと嘆きぬ竹夫人 ・・・竹には竹の心あるらむ	荒井良明
甚平着て世渡り下手の齢重ね ・・・あとの後悔先には立たず	越前春生
世に生れる前に筍斬首とは ・・・ああ人間の恐ろしきこと	相原共良
サングラスはずしバーゲン品定め ・・・サングラスでは値札が読めぬ	青木輝子
ぼうふらの鳴かず飛ばずを脱皮せり ・・・脱皮したとて声の蚊細き	柳 紅生
風鈴に風の好みのありにけり ・・・我儘言つて鳴らぬ風鈴	田村米生
折々は顔も替えたい更衣 ・・・内閣改造するがごとくに	有富洋二
ブルドーザー丸ごと洗ふ大夕立 ・・・水道代が大助かりで	稲葉純子
米朝のプラスマイナスはたた神 ・・・はつたりかます似た者同士	井口夏子

■今月の滑稽句

- | | | |
|------|--|----------------------|
| 【佳作】 | なくて七癖田植機もよく曲る
兄弟の床に端午の正座かな | 相原共良
相原共良 |
| 【佳作】 | 悩殺の短パン生足更衣
脳天気果報を寝て待つ大昼寝 | 青木輝子
青木輝子 |
| 【佳作】 | 鰻屋の骨まで金を取りにけり
紫陽花のいよいよ憂ふ乳首色 | 赤瀬川至安
赤瀬川至安 |
| 【佳作】 | 女王に屋根の安全蟻の群
あぢさみの玉三郎と玉五郎 | 荒井良明
荒井良明 |
| 【佳作】 | 無人駅つぎつぎ過ぎる青葉風
噴水の曲がり切ったる風の中 | 有富洋二
有富洋二 |
| 【佳作】 | 梅雨晴のすねて動かぬ洗濯機
梅の実を叩く男の眉しかむ | 井口夏子
井口夏子 |
| 【佳作】 | 公演デビュー子ども自慢の勢揃い
母の日や母娘三代相似形 | 池田亮二
池田亮二 |
| 【佳作】 | 母の日も父の日も一緒末息子
メロン柄千枚植田見下ろせり
ギャラリーに鹿の子もいてティショット | 石塚柚彩
石塚柚彩
石塚柚彩 |
| 【佳作】 | 老脚のてくてくよちよち緑雨かな
麦秋や秋とまがひて大爆笑
梨礫鉄砲玉の人もおり | 泉 宗鶴
泉 宗鶴
泉 宗鶴 |
| 【佳作】 | 入念に仕上げし代田車落つ
売れ残る六日の粽半額に
チョコバナナ食べてよく似た糞の出て | 伊藤浩睦
伊藤浩睦
伊藤浩睦 |
| 【佳作】 | 日月火水木金の金魚かな
白南風に誘われ染める白髪かな
一点の円熟隠す日傘かな | 伊藤洋二
伊藤洋二
伊藤洋二 |
| 【佳作】 | ふらここを下りてふらここ勝手なり
落雷や明日は晴れると云ひながら
行き先を告げず旋回鳥帰る | 稲沢進一
稲沢進一
稲沢進一 |

- | | |
|----------------------|--------|
| かき氷赤青黄のあかんべえ | 稲葉純子 |
| 【佳作】 万緑をはみだして来る子等のこゑ | 稲葉純子 |
| 冷奴検診前の努力かな | 井野ひろみ |
| どっこいしょ声も湿りて梅雨に入る | 井野ひろみ |
| 時鳥鳴いて一句の思案中 | 井野ひろみ |
| 蚊の声に耳をそば立てオープンカフェ | 上山美穂 |
| 入学式母念入りに紅を差す | 上山美穂 |
| 【佳作】 日焼止全く不要梅雨の朝 | 上山美穂 |
| よたよたとして蚊の血ぶくれは | 梅岡菊子 |
| 【佳作】 断捨離のできないままに更衣 | 梅岡菊子 |
| 紫陽花の葉が好きなのか蝸牛 | 梅岡菊子 |
| 新緑の蔭に水音とこゝろてん | 梅野光子 |
| 【佳作】 アメンボが広々遊ぶ水田かな | 梅野光子 |
| いつたんは風に傾いで花菖蒲 | 梅野光子 |
| 父の日の銚子一本増えにけり | 越前春生 |
| 【佳作】 鮎釣りの女蟹股気にもせず | 越前春生 |
| 握られし四つ葉五つ葉クローバー | 太田史彩 |
| 【佳作】 逃げる吾の背に飛びつくや油虫 | 太田史彩 |
| カラフルな輪ゴムを並べ蟻寄せず | 太田史彩 |
| 雀の子近づいて来る丸の内 | 小笠原満喜恵 |
| 【佳作】 莢を飛び出す蚕豆の一二三 | 小笠原満喜恵 |
| 餌ねだる声に振り分け親つばめ | 小笠原満喜恵 |
| 【佳作】 永遠の天敵同士蛇と吾 | 小川鮎太 |
| 田植機の後を濁さぬ仕事ぶり | 小川鮎太 |
| 早朝の老鶯の音に片思い | 川島智子 |
| ときの日や日・水・砂に花時計 | 川島智子 |
| 【佳作】 ビル工事現場に泳ぐ鯉幟 | 川島智子 |
| こっそりと妻のバッグに実梅入れ | 久我正明 |
| 【佳作】 梅雨晴や漫画本より文庫本 | 久我正明 |
| 七転び八起きしてタンポポの花 | 久我正明 |
| 石竜子出奔残像の尾をつれて | 工藤泰子 |
| 【佳作】 裏庭はいま乱鶯のオペレッタ | 工藤泰子 |
| 受付はアンドロイドや心太 | 工藤泰子 |
| 【佳作】 玉蜀黍齧る私は齧歯類 | 桑田愛子 |

- | | | |
|------|---|----------------------|
| 【佳作】 | 通夜の席つひぞ見かけぬ黒揚羽
籐椅子の吾に生きてるかと思ねる子 | 小林英昭
小林英昭 |
| | ごあいさつ葉つばの上の雨蛙
笑顔がよろし母の日プレゼント | 近藤須美子
近藤須美子 |
| 【佳作】 | 親心つわりの娘に三つ葉摘む | 近藤須美子 |
| | 梅雨入や行きと帰りで化ける傘 | 下嶋四万歩 |
| 【佳作】 | 日盛に軀の翳りあらわなる
前のめりして行く日本の後ずさり | 下嶋四万歩
下嶋四万歩 |
| | 花筵カラオケ音痴につひ釣られ
お隣りの独り暮らしにつばめ来る | 壽命秀次
壽命秀次 |
| 【佳作】 | 貝と尻ばかり見て終ふ潮干狩 | 壽命秀次 |
| | 大まかに樹齡千年樟若葉 | 白井道義 |
| 【佳作】 | 千年は一昔前油虫 | 白井道義 |
| | バイパスに売れ残りたる田を植える | 鈴鹿洋子 |
| 【佳作】 | 持て余す祭の金魚ひよ子かな | 鈴鹿洋子 |
| 【佳作】 | いい事ありそうで右へ右へ豌豆のすじ
弱気な膝夏がやけに早く来た
振りたいけど尾がない両手を振るしかない | 鈴木和枝
鈴木和枝
鈴木和枝 |
| 【佳作】 | 雨漏りやこれは大変走り梅雨
負馬にあつたらいいなブービー賞
電波の日モールズ符号は使われず | 高田敏男
高田敏男
高田敏男 |
| | 米朝の腹ふくらみて墓 | 高橋きのこ |
| 【佳作】 | 夏用の美容液買う母白寿 | 高橋きのこ |
| | この国はどうなる憲法記念の日 | 田中 勇 |
| 【佳作】 | 脳みそは錆びつかせぬよう若葉風
若葉風人とは違うもの求め | 田中 勇
田中 勇 |
| | 馬鈴薯の畑にハーレー乗りつける | 田中早苗 |
| 【佳作】 | 桑の実を食べた証拠の口と指
風船を残して曾孫帰りけり | 田中早苗
田中早苗 |
| 【佳作】 | 入道雲見れば見るほど逸ノ城
言ひ訳の通らぬ妻や冷奴 | 田村米生
田村米生 |

夏燕富士を眺める暇も無く ドクダミの根の切れチツと舌打ちす	月城花風 月城花風 月城花風
【佳作】梅雨籠夫婦の会話とんと無く	
道義的責任ドロ木下闇 薫風をおよぐドクダミ亡母の日	土屋泰山 土屋泰山 土屋泰山
【佳作】汗かいて嘘の重ね着あちこちに	
【佳作】夏瘦と言ふな減量したつもり 父の日や此の世に在れば舐ひ綱 豆飯の小皿二つや小仏壇	飛田正勝 飛田正勝 飛田正勝
目立たない内南天の花かしら パイアの臭い堪らずパパはいや	西をさむ 西をさむ 西をさむ
【佳作】緑陰に消える二人の物語	
六月や綺麗な季語も少しある 香水のミキサー梅雨の電車かな	花岡直樹 花岡直樹 花岡直樹
【佳作】梅雨空を泡にまぶしてビール飲む	
【佳作】誰が教へる朝顔の巻き方向 泡沫の夢蜘蛛の囿の一夜城 梅雨の星煌々として真夜となる	林 桂子 林 桂子 林 桂子
ままならぬと云ふもわが身や鰻食ふ 質草にされし女房初鯉	原田 曄 原田 曄 原田 曄
【佳作】雑草が好きされど草刈許されよ	
反抗子斜に構へる茅の輪かな 蓮台に座禅組みたる雨蛙	久松久子 久松久子 久松久子
【佳作】母の日の忘れられハハノキダネー	
意地を張ることの美学や花菖蒲 不揃ひや薄暑の眉の右左	日根野聖子 日根野聖子 日根野聖子
【佳作】食卓に豆ご飯てふ平和かな	
人間の心浄らか春の花 春泥や人の心を汚すまじ	廣田弘子 廣田弘子 廣田弘子
【佳作】西日背に歩めば影の八頭身	
短夜のあわてふためく早寝かな 梅雨入と聞いては駄駄を捏ねてゐる 梅雨さなか森と加計とに霽掛かり	細川岩男 細川岩男 細川岩男
【佳作】	

- | | |
|--|----------------------|
| 【佳作】 色黒の子を色白に天爪粉
省エネでかつ儉約の古扇 | 堀川明子
堀川明子 |
| 沈む日に草矢を放ちまた明日 | 本門明男 |
| 【佳作】 麦秋を端から食べるコンバイン | 本門明男 |
| 【佳作】 夏は来ぬ尾瀬の情報とびかひて
麦刈の農夫の肌や小麦色
ヤマアジサイはじめは玉のかたちして | 松井寿子
松井寿子
松井寿子 |
| 巻物の家宝の黴を吸はされし
悪役の家十葉に護られて | 松井まさし
松井まさし |
| 【佳作】 満員電車縁なき香水移される | 松井まさし |
| 【佳作】 生き過ぎも芸のうちです生ビール
掃除機を掃除している梅雨晴間
はつなつのヨガのポーズのメタボ犬 | 南とんぼ
南とんぼ
南とんぼ |
| ビロードの花の筏に笑む兜太 | 椋本望生 |
| 【佳作】 鴨の子に命令をするオムツの子
筍の皮ピカソめき獣めき | 椋本望生
椋本望生 |
| 少子化や天にあやまる鯉のぼり | 村松道夫 |
| 【佳作】 竹皮を脱ぐ一人前はこれからぞ
亀鳴くやダリの時計の動き出す | 村松道夫
村松道夫 |
| 若き日を媪日傘に思ひ出す
三尺寝届くこの世の請求書 | 村山好昭
村山好昭 |
| 【佳作】 燕来る正装なれど手ぶらかな | 村山好昭 |
| ねぢれ花ひとりで育った顔をして | 百千草 |
| 【佳作】 松の花残りの齡指で追ふ
約束の二転三転蟻地獄 | 百千草
百千草 |
| 太陽が好きで愛され花かぼちゃ | 森岡香代子 |
| 【佳作】 新蕎麦の顔はどれもが田舎者 | 森岡香代子 |
| 枇杷の種手に考える人となる | 八木 健 |
| 【佳作】 派手なのを出して戻して更衣
一夜漬試験にあらず茄子胡瓜 | 八木 健
八木 健 |
| 【佳作】 悪女には深情あり竹婦人
悪銭の身に付かずしておけら鳴く
海の日や海坂藩は山形に | 八洲忙閑
八洲忙閑
八洲忙閑 |
| 【佳作】 大王も招きかねない烏賊釣火 | 八塚一青 |

- | | |
|----------------------|-------|
| 晩酌の酔うて藪蚊と腐れ宴 | 柳 紅生 |
| 【佳作】 他所事の左団扇の法話聴く | 柳 紅生 |
| 脳疲労昼寝で回復一句詠み | 柳澤京子 |
| 散歩路犬は夏草つまみ食ひ | 柳澤京子 |
| 【佳作】 真夏日の空一直線にヘリコプター | 柳澤京子 |
| 【佳作】 裸子を追いかけているバスタオル | 柳村光寛 |
| ゆらゆらは風来坊か藤の蔓 | 柳村光寛 |
| 蚰蜒(げじげじ)に十五脚あり速さあり | 柳村光寛 |
| 野蛙の水田(みずた)を得たり大合唱 | 山下正純 |
| 【佳作】 豌豆のメタボ食べ頃実採り頃 | 山下正純 |
| 腰下す寝所はいずこあめんぼう | 山下正純 |
| 【佳作】 浮いてゐる蜂とわたしと露天風呂 | 山本 賜 |
| 紫陽花に似てゐる花が数寄屋橋 | 山本 賜 |
| エルメスのビルも白馬も梅雨の中 | 山本 賜 |
| はたた神乙女の臍に食傷す | 横山喜三郎 |
| カツコウがカツコウと鳴く校舎跡 | 横山喜三郎 |
| 【佳作】 早乙女の媪はなやぐ千枚田 | 横山喜三郎 |
| バラ展のバラに埋もれて薔薇となる | 吉川正紀子 |
| 花菖蒲葉先に露の涙かな | 吉川正紀子 |
| 【佳作】 棘で身を守りて美しき薔薇の花 | 吉川正紀子 |
| 梅雨寒し永田界限との曇り | 吉原瑞雲 |
| 【佳作】 鳥威し下校児が撃つゆび鉄砲 | 吉原瑞雲 |
| 山車を曳く小若のおちよぼ口に紅 | 吉原瑞雲 |
| 入梅に追い越されたる徒競走 | 渡部美香 |
| 子の順位気になつてゐるサイダー売 | 渡部美香 |
| 【佳作】 父と子の怪獣ごっこ夏座敷 | 渡部美香 |